

今回、私が台湾研修に参加してみたいと思ったきっかけには、様々な理由があった。その中でも、大学生になり環境が変わったことで、さらに知らない世界を見てみたいという思いが強かった。異国の地で言語、文化、教育などすべてが異なる。その環境下で、自分の価値観、世界観を少しでも変えたいと考えた。

そして、実際に台湾に行って感じたことは、想像を超えるものがあり、勇気を出して参加して本当に良かったと思う。実際に五感を使って肌で感じることで刺激を受け、たくさんの学びを得られたのだと考える。

その中でもまず、教育方針の違いを感じた。将来教育者になる立場として、大変興味深い点が多数あった。

台湾の学校の校舎は、かなり広く開放的であった。児童が校庭でサッカーをしていたり、遊具を使って遊んでいたりとかなり自由な印象を受けた。

子どもたちは快く迎え入れてくれ、英語で話しかけてくれた。そこで日本の子どもたちより、フレンドリーな印象を受けた。



それは台湾が多国籍、多文化な国であることからだと考える。現地の学校は、海外の子どもたち、教師も多く在籍していた。つまり、「外国人」という偏見や壁が、子どもの頃からないのだ。その環境で、培えるものはたくさんあるであろう。

言語以外のコミュニケーションを用いて距離を縮める方法、英語を実践する力、物事を柔軟にみる力など、どれも生きていくうえで大切な力だ。

そして、先生の話によると障がいのある子ども、なるべく隔たりない教育を目指しているそうだ。障がいの有無にかかわらず、個性を伸ばすための教育、将来を見据えての指導方針を掲げている。子どもたちの様子をみて、生き生きと生活しているのは、そのような教育が影響していると考えた。

私は、日本の教育は受動的だと感じている。

皆が同じ授業を同じように座って受けていれば卒業できることに、不安や不信感を抱いている。個人の価値を伸ばすというよりも、集団としての価値を上げる教育になっていると感じている。

今回、現地では能動的な授業が多かったように思える。学びたいことを、自分の思うようにのびのびと学べる教育体制を取っていた。子どもたちも、人と違うことを恐れずに、発言行動していたと感じる。

これらのことを踏まえ「集団の中の一人」としてではなく「個人としての一人」として個性を尊重する教育が日本に足りない点なのではないか。子どもたちの可能性を潰さないた

めに、教師が率先して個性を伸ばす教育が必要だと考える。

そして、このように自由な教育をするには、様々な工夫や配慮がされているのだと感じた。自由を守りながら、教育をすることは大変困難である。きっと教育者自身もよりよい教育を子どもたちに与えるために、常に学びを深め続けているのだと考えた。

また、女性の社会進出が進んでいると感じた。今回訪問した二校の学校長は、どちらも女性であった。聞いたところ、議会でも女性が多く当選しているようだ。

日本では、まだまだ男女平等が確立していないと思う。学校現場では、校長が男性である割合が高かったり、給料の差が生まれていたりしている。それは女性の立場が弱い風潮があるからではないか。理由として、出産や子育て、家事を両立しながらの仕事で、なかなか集中できないことがあげられると考えた。それには、周りの理解や支えが必要なはずであるのに逆に虐げられてしまうこともあるのだと思う。だから、子供を産まずに仕事に励む女性が増え、少子化につながっていると考えた。

そして、台湾に着いて驚いたことがある。カメラのシャッター音が鳴らないのだ。実は、音が鳴るのは日本だけであるようだ。それには盗撮防止の意味が込められている。被害にあっても、言えない女性が多い日本とは異なり、そもそも世界には盗撮が少ないのだ。

それは、国として平等であり、同じ立場であることが示されていると感じた。

交際や結婚をしても、自立し、意志を持って行動している女性たちを見て、感銘を受けるとともに、自然とそれができる世の中になってほしいという思いが強くなった。

また、動物を大切にしていると感じた。デパートや飲食店を歩いていると、ショッピングカートのようなものに乗った犬や猫が多く見られた。日本ではまだまだそのような光景は見られない。動物愛護精神が強く、“家族”として生活の中に存在していることが分かった。

しかし、ホームレスが存在していたり、物乞いがいたりと貧富の差は激しいと感じた。日本よりも、道は汚れていて落書きも多かった。夜市の屋台は、清潔とは言えない環境で、空気も淀んでいた。日本がどれだけ恵まれているか、安心安全な環境であるかも同時に思い知った。当たり前のことが当たり前ではないこと、当たり前にあることに感謝して生活していこうと思った。

そして、今回数ある中で台湾の一番好きになったところは、現地の人の温かさ、親切さである。もし、日本で外国の方を見かけても、なかなか話しかけようとする人は少ないのではないだろうか。私は、自分のコミュニケーション能力に自信がないことや、他人に話しかけるということに躊躇してしまう。

しかし、台湾では皆が親切に話しかけてくれる。拙い日本語でも、楽しんでほしい思いが伝わってきて心が温かくなった。

バスで、ご年配の方が乗車してきた際に席を譲ろうか迷って



いたところ、ある男性の方が“台湾では、譲らなくてもよい”ことを教えてください、自分もこのように積極的になりたいと感じた。

訪問した学校では、たくさんのおもてなしをしていただいた。言葉が伝わらなくても通ずるものがあり、人とのつながりの素晴らしさを強く感じさせられた。

しかし、同時に自分の未熟さを痛感した。

学校では、子どもたちが一生懸命話しかけてくれた。そのとき、皆が流暢に英語を話していて驚いた。台湾のインターナショナルな教育に感心するとともに、自分の勉強不足さが身に染みた。話してくれる言葉が理解できないこと、伝えたいことをうまく言葉にできないもどかしさに、悔しさを憶えた。言語が分かれば、自分の思いを心のままに伝えることができ、相手の心情や行動を読み取ることでできたのだ。また、自分には積極性が足りないと感じた。



子どもたちは、失敗を恐れずに話したいという一心で話しかけてくれた。

“恥は一瞬、後悔は一生”という言葉があるように自分の道を広げるためには自分から動かないと何も始まらない。自分のなりたい将来像ややりたいことのために受動的ではなく能動的な姿勢でいることが大切だと思った。

今回、台湾研修に参加したことで、自分の中の価値観が大きく変化した。自分の知らない世界を知ったことで、広い視野で物事を見られるようになった。そして、自分の生き方を見つめなおし、どう生きたいのかが頭に浮かんだ。どれも実際に経験しなければわからなかったことだ。この経験はお金には替えられないほどの価値がある。



そして、今回初めての海外旅行で不安があったが、先生方や仲間がいたから、良い経験として自分の中に残すことができた。出会いや人とのつながりに感謝しながら、周りの人を大切にして生きていきたいと強く感じた。このような機会をつくってくださった先生方、心から感謝申し上げます。

“得られたもの”を言葉にすることは難しい。しかし、自分の心の中の財産であることに変わりはない。知らないものを知ったときの、あの心が揺り動かされる感覚や、すべてが新鮮で、新しい自分を見つけられたような心が浮足立つ感覚は、この先一生忘れることはないのだろう。